

2020 年度事業計画

2020 年 3 月 30 日
学校法人 金城学院

目 次

I	2020年度事業計画の策定にあたって	2
II	金城学院大学	10
1	教育研究の推進と学習支援	
	■キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進	
	■学生支援の推進	
	■学生の受入の推進	
	■教学マネジメント体制の推進	
2	地域社会との共生	
	■研究成果の社会への還元	
	■生涯学習	
	■産学官連携、地域連携	
III	金城学院高等学校及び金城学院中学校	15
1	教育研究の推進と学習支援	
	■キリスト教主義による全人教育の推進	
	■生徒支援の推進	
	■生徒の受入の推進	
	■教学マネジメント体制の推進	
2	地域社会との共生	
	■産学官連携、地域連携	
IV	金城学院幼稚園	20
1	教育研究の推進と学習支援	
	■キリスト教主義に基づく全人教育の推進	
	■園児支援の推進	
	■園児の受入の推進	
	■教学マネジメント体制の推進	
2	地域社会との共生	
	■産学官連携、地域連携	
V	法人部門	25
1	環境整備	
	■新たな教育・研究活動等に対応した環境整備	
2	健全経営の維持	
	■財政基盤の強化	
	■ガバナンス	
	■ブランド力向上	
VI	予算概要	27
1	予算編成方針	
2	主な事業別予算	

I 2020年度事業計画の策定にあたって

金城学院は、1889年（明治22年）の創立以来、長きにわたってキリスト教主義に基づく女子教育に心血を注いできた。「主を畏れることは知恵の初め（箴言1：7）」をスクールモットーに掲げ、現在は、建学の精神に基づく学院全体の教育の柱「福音主義キリスト教による女子教育」「全人的な一貫教育」「国際理解の教育」に従って、大学では「強く、優しく。」を、中学校・高等学校では「社会に参画し、主体的に生きる女性の育成」を、幼稚園では「愛され、育ち合う。」を、それぞれ教育スローガンとしている。

本学院は、昨年で創立130周年という記念の年を迎えた。創立以来130年の長きに亘って積み上げられた伝統は、本学院の発展を願い、戦前・戦中・戦後の苦難の時代を乗り越え、絶えず改革を進めてきた先人たちの労苦の上に築かれたものである。このことに鑑み、本学院は今後も、変革すべきは変革し、変えてはならないものは変えない姿勢で、今日の教育機関を取り巻く厳しい環境や激しい社会の変化に対応していく。

なお、創立130周年以降の本学院の中・長期的な計画については、5年のスパンで企画・立案することとし、創立140周年に向けての第一段階として、「金城学院中期計画（2020年度～2024年度）」（次頁参照）を策定した。中期計画は、常に学院全体の組織・機構についての客観的な評価を実施し、法人運営を将来にわたって強固なものにするとともに、将来をしっかりと展望しつつ、教育・研究における質的向上の不断の努力を今後も続けていくための指針でもある。

そして、この中期計画（5年後のゴール）を実現させるために、初年度である2020年度に取り組むべき具体的な課題を、事業計画として取り上げている。

少子高齢化の進行、学校間競争の激化など、私学を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、社会のニーズもますます多様化してきているが、金城学院は、そうした様々な社会の変化と、その要請に対して迅速かつ適切に対応できるよう、大学・高等学校・中学校・幼稚園に至る各学校及び法人において、様々な教育制度の改革や、経営の改革を積極的に推し進めていく所存である。

《資料》金城学院中期計画（2020年度～2024年度）

1 教育研究の推進と学習支援

大学アクションプラン

■キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進

1 キリスト教主義に基づく全人教育

- ① 礼拝出席の奨励
- ② 学生の企画・参加型礼拝の実施
- ③ 近隣教会への出席の奨励
- ④ 金城アイデンティティ科目におけるキリスト教学関係科目の整備
- ⑤ 教職員に対する修養会および学生向バイブル・キャンプの充実

2 自ら課題を発見し、解決できる教育

- ① アクティブラーニング等を通じた能動的な学びへの転換の推進
- ② リーダーシップ教育の推進
- ③ ラーニング・コモンズや図書館の整備と利用の促進

3 国際理解の教育

- ① 交流協定校の拡大と受け入れ・送り出し留学生の増加
- ② CASEC スコアの経年変化を基礎とした英語教育体制の運用と改善
- ③ 金城コア科目における英語および外国語科目の整備
- ④ 学内環境における多言語化の推進

4 研究の推進

- ① 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の奨励
- ② 学内助成や特別研究期間制度の整備と利用の促進
- ③ 女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究

■学生支援の推進

1 教学面での支援

- ① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築
- ② ルーブリック等による客観的な成績評価の確立
- ③ カリキュラム・マップに基づく履修体制の整備と改善

2 生活面での支援

- ① 学生・キャリア支援センター・教員の三者連携による就職支援の充実
- ② 学生の課外活動やボランティア活動における支援体制の整備
- ③ 学生のマナー向上の推進
- ④ 受け入れ・送り出し留学生の経済的支援の充実

■学生の受入の推進

1 質の高い学生の確保

- ① アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜の整備
- ② 入学者選抜における「学力の3要素」の多面的・総合的な評価方法の確立
- ③ 新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試の検討

2 高大連携、接続

- ① 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充
- ② 中高“Dignity”ルーブリックとの連続性を踏まえた高大接続の強化

■教学マネジメント体制の推進

- ① 全学的な内部質保証体制の整備と運用
- ② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施
- ③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学のPDCAサイクルの確立
- ④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善
- ⑤ 「学生自己評価各期ごとのDP対応ルーブリック」を通じた学修成果の可視化
- ⑥ 外部試験の複数回実施によるコンピテンシーの経年的把握とその向上
- ⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立
- ⑧ 定期的な授業評価の実施とVOX POPの作成・公表による教育力の向上

中学校・高等学校アクションプラン

■キリスト教主義による全人教育の推進

- ① 生徒の企画・参加型礼拝の実施
- ② 近隣教会への出席の奨励
- ③ キリスト教教育実施体制の再構築
- ④ 幼中高教師修養会の充実
- ⑤ 教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励
- ⑥ 宗教主事の果たすべき役割の見直し
- ⑦ キリスト教学校教育同盟との連携による「道徳の教科化」への対応

■生徒支援の推進

1 教科教育の研究・充実

- ① 「科学的思考」「表現」「協働」する力の育成を目指す授業改善の推進
- ② 高等学校新学習指導要領の新教科「理数探究」「論理表現」の研究開発
- ③ 6年一貫カリキュラムの推進
- ④ “Dignity”を土台として、全ての教科、教育活動で「言語技術」「課題研究力」の育成
- ⑤ 英語と社会の合科“World Studies”に加えて、教科横断型学習の実践研究の充実
- ⑥ 中高大共同研究の推進。中高“Dignity”ループリックと大学「ディプロマ・ポリシー(DP)ループリック」に連続性を持たせ、大学卒業後に社会で活躍するための汎用的能力を身につけさせる。
- ⑦ 2020年度に中学1年から高校1年にタブレットを導入する。これによって生徒の探究活動、ポートフォリオ作成、家庭学習の充実を図る。
- ⑧ 観点別評価の研究

2 カリキュラムマネジメントの推進

3 中高連携した進路指導体制の整備・充実

- ① 生徒一人ひとりの将来目標の実現を支援するため、新しい時代に相応しいキャリア教育の推進
- ② 入試の多様化について情報収集し、対応方法などを検討
- ③ 調査書及び指導要録の様式の改定

■生徒の受入の推進

- ① 入試研究部における中学入試改善の研究
- ② 英語利用入試の内容検討
- ③ 思考力を測定する入試の研究
- ④ 金城サポート奨学金ジュニアハイの効果を検証
- ⑤ 企画広報室を中心に広報活動の充実

■教学マネジメント体制の推進

1 カリキュラム研究部における探究力育成の研究

- ① 教育目標図に示されている「科学的思考」「表現」「協働」を育成する授業の開発支援

- ② 「科学的思考」「表現」「協働」の3つの力が、教育プログラムによって発展・育成されたか効果測定を行うための教科ルーブリックの作成
- ③ 教育課程表の形式の改善
- ④ 21世紀型学力の研究開発
- ⑤ アドミッション、カリキュラム及びディプロマの各ポリシーの作成
- ⑥ 生徒の多様な学習成果や活動の評価方法の研究・開発

2 探究学習や観点別評価に対応するための教師研修会の実施

幼稚園アクションプラン

■キリスト教主義に基づく全人教育の推進

1 キリスト教主義に基づく全人教育

- ① 教育スローガン「愛され、育ちあう。」の実践
- ② キリスト教幼児教育に基づく教育課程の実践と検証
- ③ 礼拝を通し「聖話、聖句、讃美、主の祈り」などを幼児の心に刻み、神の愛を身近に感じながら自己に与えられた力を活かしつつ、他者と共に生きる感謝と喜びを知っていく。
- ④ 園児の教会出席の推奨

2 自ら課題を発見し、解決できる教育

- ① 主体的な活動を重視した教育の実践
- ② 異年齢クラス編成による教育の充実
- ③ 主体的活動と連動させた年齢別活動やクラス活動の充実
- ④ カリキュラムの検討、行事の見直しや改善
- ⑤ 魅力ある園庭作りと整備

3 国際理解の教育

- ① 「英語であそぼう」の教育活動や大学留学生との交流などを通し、言語、文化、考え方の違いなどに気付き多様性を学ぶきっかけとする。
- ② クリスマス献金やバザーによる支援金などを通し、国内外の状況を知り、自分達に出来ることを考える機会とする。

■園児支援の推進

1 教学面での支援

- ① 主体的な遊びを促すための、環境設定や素材の充実

- ② 個別支援記録の活用と改善
- ③ 保護者と教員との連携強化
- ④ 小学校や療育機関との連携

2 生活面での支援

- ① 基本的な生活習慣確立のための環境設定の検証と改善
- ② 保護者との定期個人懇談会、日常の情報交換の強化

■園児の受入の推進

1 園児の確保

- ① 幼稚園説明会、幼稚園体験会の充実
- ② 未就園児の幼稚園見学、園庭開放の拡大と充実
- ③ 2歳児プレ幼稚園の充実
- ④ ホームページの充実
- ⑤ KIDSセンターとの連携強化

■教学マネジメント体制の推進

1 教育体制

- ① チーム保育の充実
- ② 支援児担当教員の配置および連携
- ③ 療育機関との連携
- ④ 2022年度幼稚園設立50周年を機に教育体制の見直しと強化
- ⑤ 大学各学科の学生・教員との連携

2 教育力向上

- ① 研究会参加
- ② 公開保育、園内外研修への積極的参加による質の高い保育強化

2 地域社会との共生

大学アクションプラン

■研究成果の社会への還元

- ① 教育・研究活動成果物のリポジトリ等を活用した発信のいっそうの促進
- ② 各種講座、講演会、KIDS センターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元

■生涯学習

- ① 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践
- ② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築

■産学官連携、地域連携

- ① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進
- ② 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進

中学校・高等学校アクションプラン

■産学官連携、地域連携

- ① キャンパスの地域への開放
- ② 地域奉仕活動への参画

幼稚園アクションプラン

■産学官連携、地域連携

- ① 大学との連携強化
- ② 発達支援児やアレルギーを持つ子どものための療育機関や病院との連携
- ③ 地域の方へ行事参加案内、花の日やクリスマスを通し感謝を表す計画

3 環境整備

法人アクションプラン

■新たな教育・研究活動等に対応した環境整備

- ① KMP21 大学第3フェーズ実施に伴うE1棟竣工及び周辺外構整備
- ② E3、E4、E5、W5号館解体に伴う跡地の有効な計画の策定と実施
- ③ 新学部開設に伴う学習環境整備

4 健全経営の維持

法人アクションプラン

■財政基盤の強化

- ① 合理化・効率化による収益性向上
- ② 安定的な資産運用・活用
- ③ 財源多様化による収入基盤の強化

■ガバナンス

- ① 理事会・評議員会・監事機能の強化
- ② 情報公開の推進

■ブランド力向上

- ① 戦略的広報活動の推進
- ② 卒業生との繋がりの強化

Ⅱ 金城学院大学

「強く、優しく。」を教育スローガンに掲げ、多様化する社会で主体的に生きる強さと、思いやりの心を兼ね備えた品格ある女性の育成を目指す。とりわけ大学設立 70 周年を経て新たな歩みをはじめ本年度は、本学での教育と研究の活動が、知識だけではなく、熟慮と慎重さをもって生きることへ導く知恵の修得につながるよう、教職員が協力して以下の計画の実現に向けて取り組むものとする。

具体的には学院中期計画（2020 年度～2024 年度）に基づき、福音主義キリスト教による全人教育の強化を始めとした教育・研究の推進と学生支援を行い、また、同時に教育・研究の成果を社会に還元するための地域社会との共生にかかる事業を展開すべく、各項目にアクションプランを設けた。このアクションプランについて、本学の内部質保証推進会議または教育課程編成会議が指定した関係部門を中心に、年次計画の策定及びその実施を行なっていくこととした。

1 教育研究の推進と学習支援

■キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進

1 キリスト教主義に基づく全人教育

① 礼拝出席の奨励

オリエンテーションや授業などあらゆる機会を捉えて礼拝出席を促す。

② 学生の企画・参加型礼拝の実施

学生と教員間、また教員間の交流の機会を年に数回設けて、魅力ある礼拝作りについて意見交換を行う。

③ 近隣教会への出席の奨励

近隣教会の牧師方の理解と協力を得るために、牧師方との懇談会を開催する。

④ 金城アイデンティティ科目におけるキリスト教学関係科目の整備

教育課程編成会議から大学教務委員会に対し、当該アクションプランについての具体的な活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

⑤ 教職員に対する修養会および学生向バイブル・キャンプの充実

キリスト教セミナーに期待すること等について、アンケート調査を行う。

2 自ら課題を発見し、解決できる教育

① アクティブラーニング等を通じた能動的な学びへの転換の推進

教育課程編成会議が、大学教務委員会及びマルチメディアセンター等教学関係センターに対し、当該アクションプランについての具体的な活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

② リーダーシップ教育の推進

教育課程編成会議が、大学教務委員会に対し、当該アクションプランについての具体的な活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

③ ラーニング・コモンズや図書館の整備と利用の促進

ラーニング・コモンズでの AV 機器の利用率の調査やアンケートにより、設置を求める AV 機器の調査を行い、AV 機器の更新計画を作成する。また、図書館の利用状況に関し、どのようなデータが入手可能であるか、不足しているかについて、情報を収集、整理する。

3 国際理解の教育

① 交流協定校の拡大と受け入れ・送り出し留学生の増加

留学・海外教育系のフォーラムに参加するとともに、複数の大学と協定締結に向けた折衝を開始し、同時に英語での広報資料を持参してプロモーションを行ない、交流協定の締結へと進める。

② CASEC スコアの経年変化を基礎とした英語教育体制の運用と改善

③ 金城コア科目における英語及び外国語科目の整備

②～③については、教育課程編成会議が、大学教務委員会に対して、当該アクションプランについての具体的な活動計画の策定を指示し、その内容が実施できるよう支援する。

④ 学内環境における多言語化の推進

受け入れ留学生に対して、表示を中心とした学内環境に関するアンケートを実施し、今後の実施計画を作成する。

4 研究の推進

① 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の奨励

大型の競争的外部資金申請を目指した学内の教員間連携を促す体制構築に関する情報を収集し、体制構築の方針を検討する。

② 学内助成や特別研究期間制度の整備と利用の促進

学内助成や特別研究期間制度の整備や利用の促進を推進するため、学内研究支援制度の統合的な運用体制や周知方法を検討する。

③ 女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究

地域社会の実態にあった支援プログラムのあり方についての検討を通し、中・長期的に提供可能なプログラムの開発についての計画を策定する。

■学生支援の推進

1 教学面での支援

- ① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築
教育課程編成会議が、大学教務委員会及びマルチメディアセンターに対し、当該アクションプランについての具体的な活動計画の策定を指示し、その内容が実施できるよう支援する。
- ② ルーブリック等による客観的な成績評価の確立
- ③ カリキュラム・マップに基づく履修体制の整備と改善
②～③については、教育課程編成会議が、大学教務委員会に対し、当該アクションプランについての具体的な活動計画の策定を指示し、その内容が実施できるよう支援する。

2 生活面での支援

- ① 学生・キャリア支援センター・教員の三者連携による就職支援の充実
障がいを含め種々問題を抱える学生の状況について、教員と密に情報を共有する。外部機関も交えながら、今後の支援体制を構築する。
- ② 学生の課外活動やボランティア活動における支援体制の整備
学生ボランティア派遣を案内するリーフレットを守山区区政推進会議（守山区の公共施設、インフラ企業、教育機関等の代表者が参加する会議）で配付する。サークル協議会で案内し、派遣ボランティアの増加を目指す。
- ③ 学生のマナー向上の推進
2019年度に引き続き、通学路及び名鉄電車内におけるマナーを守るための啓発活動を行う。新たに、保健センターの協力も得て、喫煙習慣のある学生を対象とした禁煙啓発活動を行なう。また、ICTの利用に関する分析を行い、マナー改善策を検討する。
- ④ 受け入れ・送り出し留学生の経済的支援の充実
新たな奨学金プログラムを開始して、奨学金を充実させるための具体的なプログラムを考案する。

■学生の受入の推進

1 質の高い学生の確保

- ① アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜の整備
入学時に実施する外部テスト・英語プレイスメントテスト、初年次 GPA などのデータを活用して、アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜方法の妥当性を検証する手法を検討する。

- ② 入学者選抜における「学力の3要素」の多面的・総合的な評価方法の確立
入試種別ごとに課している選抜方法が、それぞれに「学力の3要素」の評価とどのように結びついているのかを検証する。
- ③ 新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試の検討
新たな大学入学者選抜制度、特に共通テスト導入初年度の受験・入試動向、他大学の入試体制などに関する情報収集に努め、本学入試体制の整備に役立てることができるようにする。

2 高大連携、接続

- ① 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充
全学交流ダイアログなどの機会を用いて、中高大教育協議会が主体となって実施している学校間連携事業について報告し、大学教職員間で情報共有ができるようにする。
- ② 中高“Dignity”ルーブリックとの連続性を踏まえた高大接続の強化
中高“Dignity”に関わる研究テーマと参考文献を各学科ごとに提示することで、高校での研究成果のまとめが、大学での学びへと結びつくようにする。

■教学マネジメント体制の推進

- ① 全学的な内部質保証体制の整備と運用
大学の理念・目的に基づいた大学として求める教員像について、これまで各学科で検討してきた内容を集約し確定する。
- ② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施
- ③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学のPDCAサイクルの確立
- ④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善
- ⑤ 「学生自己評価各期ごとのDP対応ルーブリック」を通じた学修成果の可視化
- ⑥ 外部試験の複数回実施によるコンピテンシーの経年的把握とその向上
②～⑥については、関係部署を中心に具体的な活動計画を策定し、その内容が実施できるよう支援する。
- ⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立
これまで行ってきた検討をふまえ、各学科ごとの自己評価ルーブリックを策定・運用する計画を定める。
- ⑧ 定期的な授業評価の実施とVOX POPの作成・公表による教育力の向上
教育課程編成会議が、大学FD委員会に対し、当該アクションプランについての具体的な活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

2 地域社会との共生

■研究成果の社会への還元

- ① 教育・研究活動成果物のリポジトリ等を活用した発信の一層の促進
リポジトリの管理運営の実態を確認し、管理運営上の問題点の把握に努める。
- ② 各種講座・講演会・KIDS センターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元
地域社会に還元しうるリソースを体系的に調査し、現在のニーズにマッチングさせるための体制構築にむけた計画を策定する。

■生涯学習

- ① 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践
今日の生涯学習に関するニーズの調査を行うとともに、これに基づいた体制整備の計画についてこれを策定する。
- ② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築
学科同窓会と大学との意見交換の場を持ち、卒業生とのつながりを強化するため学院メルマガや SNS を活用した交流の在り方を検討する。

■産学官連携、地域連携

- ① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業・地方公共団体・「大学コンソーシアムせと」等との連携推進
社会から強く求められている地域貢献活動に関する全学的な基本方針を検討する。
- ② 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進
過去 10 年間にわたる連携活動を全学交流ダイアログ等で共有し、守山区に拠点を置く唯一の大学としての連携活動の意義を再確認できるようにする。

Ⅲ 金城学院高等学校及び金城学院中学校

建学の精神に基づき、「社会に参画し、主体的に生きる女性」を育むため、「科学的思考」「表現」「協働」する力を、全ての教育活動で育成していく。

2021年度から、大学入試制度が大きく変化する。また、2021年度から中学校で、2022年度から高等学校で、新学習指導要領がスタートする。それらに対応するために、カリキュラムマネジメントを確立する中で、教科横断を視野に入れつつ、効果的な科目設定や授業内容の改善を行なう。さらに、高等学校では調査書の変更や学習履歴や活動履歴の報告書などの作成に向けての準備を進める。

1 教育研究の推進と学習支援

■キリスト教主義による全人教育の推進

① 生徒の企画・参加型礼拝の実施

伝道週間や特別礼拝などを、宗教常任委員会・宗教委員会を中心に、生徒によって企画を立てて行ない、生徒の参加を更に促していく。特に、春・秋にもたれる伝道週間では、引き続き生徒のアイデアを盛り込んでいく。

② 近隣教会への出席の奨励

教会出席奨励日があるが、1年を通して、担任や授業担当者（聖書科を中心に）の協力を得て、引き続き教会への出席を促す。

③ キリスト教教育実施体制の再構築

これまでの中高の一貫教育としてのキリスト教教育の意義を確認し、「礼拝、行事、聖書科授業」のさらなる連続性を構築していくとともに、キリスト教教育の中で、宗教課が直接、責任を負う生徒の特別活動、ハンドベルクワイアやYWCAなどを、中学校・高等学校で同じ位置付けに整える作業を進める。

④ 幼中高教師修養会の充実

本校の教育の礎であるキリスト教について学ぶ機会として、幼中高教師修養会をさらに充実させる。

⑤ 教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励

キリスト教学校教育同盟の研修会への参加を促す。さらに、それぞれの年代からの代表が参加していけるようにする。

⑥ 宗教主事の果たすべき役割の見直し

キリスト教教育全般をつかさどる各校の宗教主事が、学院主事会の責任のもとでそれぞれの役割を担い、ますます中高大の連携を強化する。

⑦ キリスト教学校教育同盟との連携による「道徳の教科化」への対応

キリスト教学校教育同盟と連携し、中高における道徳という教科の位置付けを学院主事会で話し合い、学院として方針を決定する。

⑧ 地域を中心としたボランティア活動への参加の奨励

課外活動としてのボランティアの形を整え、他者に感謝して仕えることで社会に参加できる生徒を養い育てる取り組みを継続する。

■生徒支援の推進

1 教科教育の研究・充実

① 「科学的思考」「表現」「協働」する力の育成を目指す授業改善の推進

「科学的思考」「表現」「協働」する力の育成を目指すため、研究公開授業を実施し、互いの授業の改善を一層進める。中学校では、2021年の中学校の新学習指導要領のスタートに先立ち、2019年度より週2日7時間授業を実施しており、引き続き基礎学力の定着と探究活動の充実に充てる。高校では、2020年度高校入学生より週2日7限授業を実施する。1年生は、学校設定科目「スタディスキルズ」の授業を新設する。高校での学び方に加えて、主体的に学びに向う学習集団づくりを行う。

② 高等学校新学習指導要領の新教科「理数探究」「論理表現」の研究開発

2022年の高等学校の新学習指導要領のスタートに備えて、引き続き新学習指導要領に向けた新教科「理数探究」「論理表現」の実践研究をする。

③ 6年一貫カリキュラムの推進

6年一貫カリキュラムを、カリキュラム研究部を中心にさらに検討し推進する。

④ “Dignity”を土台として、全ての教科、教育活動で「言語技術」「課題研究力」の育成

“Dignity”を土台として、全ての教科、教育活動で「言語技術」「課題研究力」を育成する。全教員に向けた言語技術教育についての講習会を実施し、教員の教育力を養う。

⑤ 英語と社会の合科“World Studies”に加えて、教科横断型学習の実践研究の充実

高校において、英語と社会の合科“World Studies”に加えて、教科横断型学習の実践研究を充実させる。

⑥ 中高大共同研究の推進。中高“Dignity”ループリックと大学「ディプロマ・ポリシー（DP）ループリック」に連続性を持たせ、大学卒業後に社会で活躍するための汎用的能力を身につけさせる。

中高大教育連携を更に推進するため、中高大共同研究「中学校から大学までの汎用的能力を育成する教育手法の開発」の成果を活用する。共同研究で作成した中高大コモンループリックをアカデミックライティング力の向上に役立てる。

- ⑦ 2020 年度に中学 1 年から高校 1 年にタブレットを導入する。これによって生徒の探究活動、ポートフォリオ作成、家庭学習の充実を図る。

タブレット導入のための教員、生徒の研修会を実施し、ICT による新たな授業展開を行う。

- ⑧ 観点別評価の研究

2 カリキュラムマネジメントの推進

教育目標を達成するために編成・計画された全ての教育活動が有機的に結びつき、かつ効果的に実施されているかどうかを評価して、教育活動を改善していくためにカリキュラムマネジメントを実施する。

3 中高連携した進路指導体制の整備・充実

- ① 生徒一人ひとりの将来目標の実現を支援するため、新しい時代に相応しいキャリア教育の推進

進路指導が単なる知識・技能の習得度に基づく指導に留まることなく、多面的・総合的な評価に基づき、生徒一人ひとりの将来目標の実現を支援するあり方に転換する。

- ② 入試の多様化について情報収集し、対応方法などを検討

大学入試制度の変更や入試の多様化について、進路指導課として情報収集し、早めの準備やその対応方法などを提案する。

- ③ 調査書及び指導要録の様式の改定

調査書及び指導要録の様式等を、新たな中学校・高等学校の在り方を踏まえ、生徒の多様な学習成果や活動が反映されたものになるように改定する。

■生徒の受入の推進

- ① 入試研究部における中学入試改善の研究

帰国子女を主な対象とする英語利用入試の制度設計及び運営について検討し、英語能力に秀でた生徒を選抜し入学を促す。

- ② 英語利用入試の内容検討

中学校の 2021 年度入試から導入する準備を進める。

- ③ 思考力を測定する入試の研究

既存の 4 科入試とは別に、思考力、判断力及び表現力を測定する独自の入試制度の設計及び運営について検討し、2022 年度入試に向けて潜在的な学習能力に秀でた生徒の選抜方法を検討する。面接内容に関するサンプルをとり、受験生の力をはかる方法を検討する。

- ④ 金城サポート奨学金ジュニアハイの効果を検証
金城サポート奨学金ジュニアハイの効果を検証する。
- ⑤ 企画広報室を中心に広報活動の充実
塾などの主催する入試研究会への参加、入試情報誌の閲覧、研究部内での勉強会の実施などを行う。

■教学マネジメント体制の推進

1 カリキュラム研究部における探究力育成の研究

- ① 教育目標図に示されている「科学的思考」「表現」「協働」を育成する授業の開発支援
教育目標図に示されている「科学的思考」「表現」「協働」を育成する授業の開発支援をする。
- ② 「科学的思考」「表現」「協働」の3つの力が、教育プログラムによって発展・育成されたか効果測定を行うための教科ループリックの作成
「科学的思考」「表現」「協働」の3つの力が本校の教育プログラムによって、発展・育成されたか効果測定を行う。そのために教科ループリックを作成する。
- ③ 教育課程表の形式の改善
教育課程表の形式の改善をする。
- ④ 21世紀型学力の研究開発
21世紀型学力の研究開発をする。
- ⑤ アドミッション、カリキュラム及びディプロマの各ポリシーの作成
アドミッション、カリキュラム及びデュプロマの各ポリシーを作成する。
- ⑥ 生徒の多様な学習成果や活動の評価方法の研究・開発
新たな評価方法の研究・開発を行い、生徒の多様な学習成果や活動を評価する方法に転換する。

2 探究学習や観点別評価に対応するための教師研修会の実施

- ① 中高教師研修会の実施
日時：8月21日（金）午後
講師：佐宗 邦威 氏（共創型戦略デザインファーム BIOTOPE 代表）

2 地域社会との共生

■産学官連携、地域連携

- ① キャンパスの地域への開放
 - 1) 東区主催「歩こう！文化のみち」などでの施設・設備の開放と活用機会の提供
 - 2) 施設・設備の利用法の見直し
- ② 地域奉仕活動への参画
 - 1) 東区主催「歩こう！文化のみち」への積極的参画と奉仕活動
 - 2) 社会福祉関係施設・保育関係施設での奉仕活動
 - 3) 病院・刑務所・福祉施設等への慰問
 - 4) 音楽系クラブによる演奏奉仕

IV 金城学院幼稚園

幼稚園では、2019年10月から満3歳児以上の園児対象に保育料無償化が始められた。これは歴史的なことであり子育て世代には喜ばしいことである。これを受けて満3歳児入園希望者が増加している。満3歳児受け入れは少子化に伴う各園の定員割れ対策から補助金対象にされ受け入れが始められたが、今後は受け入れの増員や教育の質的向上が益々求められる。2020年度も教育スローガン「愛され、育ちあう。」を掲げ、主体的な遊びを通し異年齢で関わりあう特色ある幼児教育を推し進めていく。

1 教育研究の推進と学習支援

■キリスト教主義による全人教育の強化

1 キリスト教主義に基づく全人教育

① 教育スローガン「愛され、育ちあう。」の実践

神に創造されたかけがえのない一人ひとりとして活かされている感謝と喜びを、遊びや生活を通し実感できる教育のため、本学院主題聖句及びキリスト教保育連盟2020年度聖句に基づきカリキュラムを組むものとする。

② キリスト教幼児教育に基づく教育課程の実践と検証

教育課程に基づく年間指導計画・月案・週案・日案作成において、年間聖句とキリスト教保育の年間目標を意識化し、教育に当たる。また、毎月の評価と改善に努める。

③ 礼拝を通し「聖話、聖句、讃美、主の祈り」などを幼児の心に刻み、神の愛を身近に感じながら、自己に与えられた力を活かしつつ、他者と共に生きる感謝と喜びを知っていく。

具体的には毎月の聖句暗唱・讃美歌・聖話は、天地創造からイエス・キリストの降誕、イエス・キリストの生涯、十字架の贖罪、復活と昇天を年間カリキュラムに組み入れ繰り返し伝える。3学期には全園児で主の祈りを覚える。

④ 園児の教会出席の推奨

教会出席のきっかけ作りとして、夏休み・春休み等に教員が交代で子どもたちと共に地域の教会へ出席をする。

2 自ら課題を発見し、解決できる教育

① 主体的な活動を重視した教育の実践

子どもが自ら身近な環境に興味を持ち関わり、試行錯誤しながら意欲的に遊べる環境設定を日々行うと同時に、園庭や園舎に関し長期的な研究と計画を立てる。

② 異年齢クラス編成による教育の充実

3・4・5歳児が受け入れ合うことを通し、発達段階に沿って自己発揮できるように促す。また、満3歳児に関して入園時期の違いを鑑み、個の発達を十分見極めたくうえで、適宜異年齢クラスでの活動に参加する機会を設ける。

③ 主体的活動と連動させた年齢別活動やクラス活動の充実

主体的活動における集団や個の姿を把握しつつ、そこで生み出された遊びに着眼し、年齢別活動やクラス活動に繋がりを持たせながら課題に取り組む。

④ カリキュラムの検討、行事の見直しや改善

学期ごとに教員間でカリキュラムの振り返り検討会を行い、カリキュラムマネジメントの強化に努める。また、そのことにより各行事が慣習として行われるのではなく、子ども達の実態に沿ったものであるかの検証を行っていく。

⑤ 魅力ある園庭作りと整備

安全点検や整備は勿論であるが、あそび場としての園庭が、子ども達の創造性や科学する目をより刺激する場となっているか、随時園内研修を行い検討する。

3 国際理解の教育

① 「英語であそぼう」の教育活動や大学留学生との交流などを通し、言語・文化・考え方の違いなどに気付き多様性を学ぶきっかけとする。

自由活動・年齢別活動・クラス活動への英語活動の取り入れ方を検討し、子ども達が英語の環境に触れることを通し、自国・他国への言語や文化への興味関心を深めるようにする。

② クリスマス献金やバザーによる支援金などを通し、国内外の状況を知り、自分達に出来ることを考える機会とする。

年長児を中心に話し合い、情報を子どもなりに収集し、掲示や発表を通して世界に目を向け、国際平和や環境問題に関心を持つ。

■園児支援の推進

1 教学面での支援

① 主体的な遊びを促すための、環境設定や素材の充実

子ども達の遊びの発展性を見取り、必要なコーナー、素材の準備を行う。また、素材となる廃材収集のため保護者に協力を得る。

② 個別支援記録の活用と改善

発達障がい児について、月毎の振り返りをもとに次月のねらいを立て、全教員での検討会を行う。年長児の個別支援記録を小学校への引継ぎと連携に活かす。

③ 保護者と教員との連携強化

登園時・降園時の情報交換に加え、現行の個人懇談会・クラス懇談会・園長とおしゃべり会などを定期的に行い、子どもの成長や課題、保護者自身の子育ての悩みなどについて話す機会を設ける。

④ 小学校や療育機関との連携

地域の小学校（大森小・大森北小・小幡小・小幡北小）との懇談会を定期的に行ない、就学児童や入学予定児に関する情報交換を行なう。

療育機関とは個別支援児に関する相談や訪問を行なう。

2 生活面での支援

① 基本的な生活習慣確立のための環境設定の検証と改善

集団生活における個々の身のまわりのことに関する自立、そのための動線の検証、保護者への協力体制を強化する。

② 保護者との定期個人懇談会、日常の情報交換の強化

個々の課題や子育てに関する相談をもとに、保護者との信頼関係を深める。

■園児の受入の推進

1 園児の確保

① 幼稚園説明会・幼稚園体験会の充実

2021年度入園説明会を6月から9月までの間に5回以上、幼稚園体験会を12回以上設け、幼稚園理解と入園につなげる。

満3歳児受け入れは増員を検討、そのための受け入れ態勢の強化。

② 未就園児の幼稚園見学・園庭開放の拡大と充実

未就園児の会を「こすすめの会」として園庭開放を年間20回程度開催。また、8月には「こすすめプール」として各20組親子3日間を行う。

③ 2歳児プレ幼稚園の充実

5月～9月にかけて毎月3回程度行う。園児との自由活動の体験、集団親子遊びなどを通して幼稚園理解、入園につなげていく。

④ ホームページの充実

各募集のアップ・入園への情報・子ども達の遊びなどをこまめにアップすることで、情報提供とPRを充実させる。

⑤ KIDS センターとの連携強化

入園説明会に先駆け、4月下旬にKIDS センターでおやつ試食を兼ねた「幼稚園ってどんなところ」の講演を園長が行う。また、「2歳児の親子ふれあい遊び」を本園満3歳児保育担当者が2回にわたり行う。また、幼稚園においてKIDS センタースタッフの研修を行う。

KIDS センター開催「ようちえんへおさんぽに行こう。」に毎月2回程度応じる。

■教学マネジメント体制の推進

1 教育体制

① チーム保育の充実

自由活動時に関わった子どもの個々の姿や遊び、クラス活動や年齢別活動での様子などの記録を共有し話し合い、カリキュラムマネジメントに努める。

② 支援児担当教員の配置および連携

特別支援児補助金内での支援教諭配置、個別支援記録に基づく全スタッフ会議での定期的検証に努める。

③ 療育機関との連携

大学心理臨床相談室、支援児が通う療育機関との園内研修や訪問を通し連携を図る。

④ 2022年度幼稚園設立50周年を機に教育体制の見直しと強化

本園の教育を振り返り、今後の教育体制について園内研修や研究会を通し検討する。

⑤ 大学各学科の学生・教員との連携

現行の大学院生・英語英米文化学科生・現代子ども教育学科生・薬学科生の実習・ゼミ・演習授業はもとより、自主実習生受け入れや留学生との交流を行う。

また、各学科の教員との交流を通し、学生や園児の教育活動につなげていく。

2 教育力向上

① 研究会参加

2019年度ソニー幼児教育プログラムによる公開園庭ワークと実践発表に続き、2020年度は、愛知県幼児教育研究会の依頼による教育研究会を本園で開催予定。

② 公開保育、園内外研修への積極的参加による質の高い保育強化

公開保育や園内外研修により、教諭自身が学ぶことにより多様性や主体性を以って教育を行う喜びを感じ、意識強化する。

2 地域社会との共生

■産学官連携、地域連携

① 大学との連携強化

大学各学科の学生受け入れと、大学教員との連携を強化する。

② 発達支援児やアレルギーを持つ子どものための療育機関や病院との連携

各専門機関との連携により、園児への細やかな教育的配慮や危機管理を強化する。

③ 地域の方へ行事参加案内、花の日やクリスマスを通し感謝を表す計画

子ども達が案内を作成したり訪問をしたりすることにより、日頃の感謝を表すなど近隣の方やお年寄りとのふれあいの機会を設ける。

V 法人部門

金城学院大学、金城学院高等学校、金城学院中学校及び金城学院幼稚園が行う様々な事業を、円滑かつ健全に運営するために法人部門が担う役割は極めて重要である。変化が激しい社会環境や、多様化するニーズに応えることができる学校法人であるために、絶え間ない組織・経営改革の推進を、法人部門は求められているからである。

このような認識と使命の下、学校法人金城学院の中期計画に基づく法人部門の2020年度事業計画としては、次の2点を掲げてその取り組みを進める。

1 環境整備

■新たな教育・研究活動等に対応した環境整備

- ① KMP21 大学第3フェーズ実施に伴うE1棟竣工及び周辺外構整備
本部棟からE1棟を含めE3・E4号館解体後の外構整備案を作成し、実施する。
- ② E3・E4・E5・W5号館解体に伴う跡地の有効な計画の策定と実施
E3号館増築等を残し、学院資料室として整備する。
整備にあたっては、どのような資料室が良いのか特に検討する。
- ③ 新学部開設に伴う学習環境整備
W5号館を解体し、W8号館を増設することになっているが、計画通り2021年3月中旬の竣工が遅滞なく完了するよう管理する。
また、外構及び学生動線等について検討する。

2 健全経営の維持

■財政基盤の強化

下記を推進することにより、5年後には2019年度に対して、1億円の収入増を目指す。

- ① 合理化・効率化による収益性向上（1,200万円）
補助金の確保策について検討し、実施できる事項から進める。
また、事務業務の中で合理化できる業務の検討を行う。
- ② 安定的な資産運用・活用（200万円）
資産運用規程に基づき、より収益性のある商品の購入、入れ替えを行う。
また、新たな資産運用について模索する。
- ③ 財源多様化による収入基盤の強化（600万円）
金城サポートで新たな事業（印刷業等）を検討し、実施する。
また、生涯学習について検討する。

■ガバナンス

① 理事会・評議員会・監事機能の強化

私学版ガバナンスコードについて検討し、ガバナンスコードを作成する。

また、理事会・常任理事会での審議のあり方について整理する。

② 情報公開の推進

情報公開すべき項目について検討し、公開する。

■ブランド力向上

日経 BP 調査東海版において、10 位以内を維持するとともに、大学及び中学校の志願者数を 2019 年度に比べて 10%増加させる。

① 戦略的広報活動の推進

ブランド力を向上させるための方策について検討する。

② 卒業生との繋がり強化

卒業生メルマガ登録者数を 1,500 名とするための方策を検討し、実施する。

VI 予算概要

1 予算編成方針

① 収入関連

学生生徒納付金収入は、各校とも対入学者定員 100%、退学・休学想定率 2% とする。補助金収入は、前年度実績の 90%もしくは最低補償額を見込む。その他の収入等は、不確定な要素があるので、例年通り織り込まない。

② 支出関連

健全財政の確保を目的として、2020 年度の継続経費は、「2019 年度規模に対するゼロシーリング」を目指す。また、引き続き、防災対策強化・環境配慮などの政策的予算への積極的な再配分を目指す。設備更新関連は、緊急性・有効性などを十分検討し予算化する。

③ 保有資金

KMP21 に関連する収支を除いた予算で、2020 年度において保有資金の増額 10 億円以上を目指す。

2 主な事業別予算

予算編成方針に基づき、2020年度の主な事業に対する予算を次の通り計画した。

(単位：千円)

分類	事業内容	予算額
KMP21 関連事業	(大学) ・KMP E1 棟建築費 ・KMP E1 棟設計管理費 ・KMP E3・E4・E5・W5 号館解体他工事 など	2,523,870
新学部設置 関連事業	(大学) ・看護学部新築工事 ・看護学部 図書納入費 など	1,431,084
教育設備 充実事業	(大学) ・W1 棟設備・機器年次改修費用 など	105,845
	(幼稚園) ・満3歳児定員増員のための保育室拡張工事	
修繕事業	(学院) ・スマイスハウス施設設備修繕費	337,393
	(大学) ・N3 棟内外装改修工事 ・W8 号館年次計画に伴う空調熱源更新工事 ・アニ・ラットル記念講堂空調用自動制御器更新 など	
	(中学校) ・中学校講堂年次計画に伴う外部改修工事 など	
広報事業	・新聞広告掲載 ・鉄道額面ポスター掲出 など	141,006
その他	・緊急特別就職支援策 など	54,624
合 計		4,593,822